

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

平成 26 年 9 月 29 日	
所属部局・職	霊長類研究所生態保全分野・修士課程学生
氏名	有賀菜津美

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
ウガンダ, カリンズ森林保護区
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
チンパンジーの調査
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 7 月 12 日 ~ 平成 26 年 9 月 13 日 (2ヶ月間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果:長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

2014年7月12日から9月13日の約2か月間でおこなった、ウガンダでの調査について報告する。

7月17日に、エンテベの Ngamba Island Chimpanzee Sanctuary と Jane Goodall Institute、Uganda Wildlife Education Centre (UWEC) を訪問した。Ngamba Island Chimpanzee Sanctuary は、ビクトリア湖に浮かぶ Ngamba 島で保護されたチンパンジーを飼育している施設である。エンテベ空港近くの船着場から約45分船に揺られていると突然島が見えてくる。島の一部には、スタッフの居住区やチンパンジーが夜間眠る施設などがあり、電気柵で区切られた島の大部分は日中チンパンジーが過ごす自然林になっている。現在、約50個体のチンパンジーが保護されており、屋外放飼場での餌やりの様子と屋内放飼場を見学することができた。この施設では、一般のお客さんが宿泊し飼育体験もできるため、私が訪れた際にもドイツ人の女性の方など数名が給餌のお手伝いをしていた。また、熱心な観光客も多く、数人のガイドが付き添い、チンパンジ

スケジュール

- 7月12~13日  
出発(関西国際空港ードバイーエンテベ)
- 7月14~16日  
関係各所訪問、買い出し
- 7月17日  
Ngamba Island, UWEC
- 7月18日~9月10日  
カリンズ森林保護区にてチンパンジーの調査開始
- 9月11~13日  
帰国(カリンズーカンパレーンテベードバイー関西国際空港)

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

一についての説明をおこなっていた。飼育スタッフ（獣医含む）は、島で生活をしながらチンパンジーの飼育をおこなっているようだ。

Ngamba 島の訪問の後、Jane Goodall Institute を訪問し、カリンズ森林におけるチンパンジーの保全活動についての議論を行った。その後、UWEC を訪問した。UWEC の入口には幼稚園児や小学生の団体が、大勢訪れていた。日本と同じだと感じたが、話を聞くと多い日には 50 校以上の学校が訪れるらしく、数の多さにとても驚いた。入口を入ってすぐのところには、ビジターセンターがあり、スタッフが骨格標本やポスターを用いて、小学生にウガンダの動物や保護活動について説明を行っていた。質問の時間になると、子どもたちは積極的に手を挙げ、熱心に質問をしている様子が印象的だった。また、動物園はとても広く、展示施設と展示施設の間が遠いという点が日本とは違うところだと感じた。そして、UWEC では違法捕獲によって親をなくした動物なども保護されており、スタッフが子どもたちに説明をおこなっていた。しかし、訪問する学校が多く、来てもらった人みんなに説明できないことや、引率の先生が動物について知らないためテーマパークのようになっていることが問題点であると言っていた。今回は時間があまりなかったため、全部を回ることはできなかったが、また機会を作って訪れたい。

7 月 18 日からは調査地であるカリンズ森林保護区で調査をおこなった。初めて森を歩いた日は、道を歩くチンパンジーにすぐ出会えた。いままでも動物園でチンパンジーは見てきたが、野生のチンパンジーは迫力があり、とても大きく感じた。また、オス同士がパントフットで鳴き交わしを始めると、少し怖いと感じたのが正直な印象であった。調査を開始した時期は、Ficus sur というイチジクが多く稔っており、たくさんのチンパンジーに会うことができた。しかし、高い所にいるチンパンジーを双眼鏡で覗き、個体識別を始めると、その難しさに弱音を吐きそうだった。正面から見えなかったり、特徴のある部分が木で隠れていたり、同じチンパンジーに毎日会えなかったりと、とても苦戦した。チンパンジーの母子の調査を行ったが、観察対象である母子のチンパンジーが私たちを見るとすぐに逃げてしまうことが多く、調査がいつになったらできるのだろうかと不安になった。しかし、少しずつではあるが観察時間は増えてきている。今回の調査は 2 ヶ月の滞在だったが、予想していた以上に様々な母子に出会うことができた。帰国したら研究計画を練り直し、次回の調査に備えたいと思っている。

わたしは、キュレーターという職業に関心があり、教育普及活動にも積極的に取り組みたいと渡航前から考えていた。カリンズ森林には、村に隣接している場所に環境教育センターという施設があり、現地の子どもたちに図書を解放する活動を行っている。そのため、私も毎週日曜日に教育センターを訪れ、子どもたちと一緒に本を読んだりしていた。子どもたちはとても愛嬌があり、一緒にダンスをしたり勉強したりする時間は滞在中の癒しでもあった。また、動物園についてのレクチャーを 1 回おこなった他、子どもたちを対象にこうした環境教育活動がどんな影響があるのか、調査を始めた。子どもたちを対象にインタビューをおこない、どのくらいカリンズ森林にいる霊長類を知っているかなどの質問をした。チンパンジーや村に出現することを知っている子はもちろん多かったが、その他の霊長類の名前は知らない子が多かった。次回の調査では、こうした調査を続けるとともに、

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

子どもたちと一緒にできるアクティビティなどを考えたいと思った。



写真1 屋内放飼場 (NGAMBA ISLAND)



写真2 屋外放飼場 (NGAMBA ISLAND)



写真3 子どもたちに説明するスタッフ (UWEC)



写真4 爬虫類館 (UWEC)



写真5 チンパンジーの観察中  
(撮影:松尾)



写真6 *Ficus sur* を食べる Umoja



日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書



写真7 動物園について講演（撮影：松尾）



写真8 インタビューの様子（撮影：松尾）



写真9 ダンスする子どもたち（撮影：松尾）



写真10 エデュケーションセンター

## 6. その他（特記事項など）

今回の出張を行うにあたり、熱心な指導を受け賜りました、橋本千絵先生には深く感謝いたします。さらに、ご支援ならびにご協力いただきました調査地スタッフと訪問させていただきました NGAMBA ISLAND と UWEC のスタッフの方々に深く御礼申し上げます。本活動は、PWS より助成を得て、おこないました。ありがとうございました。